



公明党  
奥村 義則 議員

災害時要配慮者の避難体制確立を

問 2011年に起きた東日本大震災をきっかけに避難準備情報発令時は、要配慮者など、特に避難行動に時間を要する者が避難行動を開始しなければならぬ段階であり、人的被害の発生が高まった状況と定められた。本市においても、これに即し「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」の策定が行われたと認識しているが、本市内の福祉施設等にはマニュアルは届いているのか。また、施設による避難訓練の実施状況や、特

に避難準備情報発令を想定した訓練実施の把握は。

答 本市でも「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」の策定は行っているが、これは、市が避難情報の伝達方法等を検討するに当たって最低限考えておく事項を示したものだ。現在のところ、施設にマニュアルは届けていないが、平成24年度に配布した「災害時サポートガイドブック」等において気象状況、水位情報、避難情報の伝達の流れや、危険の前触れ、河川の氾濫した場合、どの場所がどれ位

の深さまで水につかるか、逃げ時の判断を示している。現在、「福祉避難所開設・運営マニュアル」の策定準備を進めており、熊本地震や台風10号で課題となった福祉施設の対応等についても注意をお願いしている。施設における避難訓練実施に

関しては、入所施設16か所において、年間1〜2回実施していると聞いている。今後は福祉部局との連携強化と、災害を想定して避難準備情報が出た場合の避難訓練が実施されているかの調査や、福祉施設の職員に防災リーダー養成講座の受講や防災士の資格取得等の依頼と施設全体の危機管理意識の向上にむけて啓発を行っていききたい。



市民創世会  
大門 嘉和 議員

住みよさランキング向上について

問 全国813市区で6位。高評価の要因は？

答 各指標が総じて平均より高い水準にある。また、20%通勤圏補正がランキングを押し上げて

いる。

問 指標の内「快適度」に関して。都市公園の整備を進めるべきでは？

答 市全体で18か所面積約86.9ヘクタール。市民一人当たり約12.6㎡。全国平均は10.2㎡。県平均16.18㎡。

問 長泉寺山は自然を活かした公園として整備すべき。自然と歴史、

文化財的価値は？

答 市街地にあり自然に親しむ手頃な丘陵。70基近くの古墳を確認。白山神社社叢と67号墳が市文化財に指定されている。

問 67号墳を整備すべきでは？

答 長泉寺山古墳群では最大の前方後円墳で全長52m。未整備だが解説板の設置、雑木の伐採など簡単な整備を実施したい。今後、国や県の史跡指定を受け整備したい。

問 今後の長泉寺山の整備方針は？

答 山全体を環境保全ゾーンとして守る。園路はトレッキングコースとして整備する。登山道の入り口に案内表示板を設置する。

問 「富裕度」に関して。3大産業の現状は？

答 出荷額はピーク時に比べ眼鏡約53%、繊維約63%、漆器約71%減少（平成23年度調査データ）。

問 鯖江ブランド構築のための「ゆるキャラ」の活用は？

答 レッサーパンダを「市の動物」に認定した。子ども向けのものとか家族の温かさ、そういったものを象徴できるイメージ戦略を大切に活用していく。

そのほか

○下水道接続率の向上

○駅前における市の顔としての整備など質問と提案。



公明党  
遠藤 隆 議員

課題発見・解決に向けた主体的・協働的な学習法について

**問** 次期学習要領に向けた大きな柱に一つにアクティブ・ラーニング教育がある。これは、教員が一方的に知識を教える講義型ではなく、児童・生徒が主体的に問題を発見し、答えを見出していく能動的な学習法です。本市におけるアクティブ・ラーニング教育の進捗状況は、

**答** アクティブ・ラーニング教育は新しい学習指導要領のキーワードです。これまでも、学校現場では知識注入型の授業の改善は図られてきました。今、現在各学校では、一つの課題解決に向け

て取り組む問題解決型の学習、また、課題そのものを自分たちで設定してその解決に向けて取り組む探究型の学習が行われている状況です。その際には、子どもたちが隣の子どもたちとペア学習、グループ学習による児童・生徒一人一人が自分の考え、意見を出し合いながら友達の意見も聞き合いながら、学習につなげている状況です。今後は、これらの学習を進めていく中で、情報を共有する場面であるとか、情報を整理する場面などで電子黒板やタブレットなどのICT機器の特徴を生かした学習を進めていく。

※アクティブ・ラーニングとは。  
教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

その他の質問

○学校教員の負担軽減について。  
○学校におけるICTの活用・普及について。



市政同志会  
佐々木一弥 議員

憩いの広場 西山公園について

**問** 嚮陽溪を造られた

**問** 西山公園にける市長の思いを伺いたい。

**答** 市長 藩の財政が苦しいときに、みずから鋤や鋤を持って庭園を造成し、民衆とともに楽しみを同じくしようという与衆同樂の思いで、当時としては先進的な革新的な考え方をされた間部詮勝公はすごい方だと思います。歴代の市長さんも、まさに間部詮勝公の嚮陽溪に対する思い、あるいは与衆同樂の思いと一致する中で西山公園の整備をしてきたんだらうと思います。私も市民が四季折々にそ

れぞれに感じる公園として、親しめる憩いの場として整備をしています。きたいと思っています。

**問** 市内に有る幼保の園児、そして小・中の生徒たちは、憩いの場だけでも利用されているとのことだが、福祉施設の方の利用についてはどうなのか。

**答** 西山公園は福祉施設の入所、通所の方にとって憩いの場として、また身体機能の維持、向上やコミュニケーションの促進を図る場として多くの方に利用されています。

また、道の駅にエレベーターが設置されたことにより、足腰が不自由な方でもピクニック

ク広場まで楽に上がれるようになり、気軽に西山公園を楽しんでいただいています。

**問** 福祉関係の車の駐車について、道の駅南側にある大型車用駐車場は利用できないのか。  
**答** 利用については、道の駅へ連絡をしていただき利用許可を取って利用していただきたい。

**問** ベビーカーや車いすの貸し出しはあるのか。  
**答** 鯖江観光協会では、ベビーカーと車いすを、公園の管理事務所では車いすの貸し出しを行っている。





市政同志会  
福原 敏弘 議員

立地適正化計画について

西山公園に来るための道路整備

**問** 西山公園を核として、中心市街地への人の流れの誘導に必要な鯖江インターから西山へのアクセス道路やふれあい広場駐車場への県外客や市内住民が入りやすい道路網の整備について。

**答** 副市長 市民憩いの場である西山公園は、今年年間100万人も来訪者がある市内最大、有数の一大観光スポットであります。鯖江インターチェンジから西山公園に向かう直接アクセス道路につきましては、新たな観光需要を拡大するためにも将来

必要不可欠な道路です。市としましても、将来

を見据えて、本年度以降ぐらいから地元の方々にも必要性また線形等もお示しして、協議、調査に入り理解を得たい、また、ふれあい駐車場は、わかりにくいとお聞きしていますので、誘導のための看板等を含めて研究していきたい。

財源確保について

**問** 立地適正化計画を推進していく中で、どのように財源を確保していくのか。

**答** 本市の財源を取り巻く環境は非常に厳しいもので、平成29年度当初予算編成においては、経常経費の予算要求にシーリング方針を

導入するなど、積極的に行行政コストの削減を図り、財政健全化に取り組んでいます。計画に基づいての財源については、社会資本整備

総合交付金を中心に、国の補助制度を活用してまいります。交付金を除いた地方の負担分につきましては、起債による財源調達など、できる限り有利なものを活用することによって、極力、将来へのつげ回しというものをしていきたいと思います。

その他の質問

○公共施設等総合管理計画の見通しについて  
○公共交通の利便性の高い地区への居住誘導の推進について。



市民創世会  
丹尾 廣樹 議員

青年層に対する行政の関わりについて

青年層は、総じて行政関与の薄い世代。対象施策の充実が必要だ

**問** 「成人式は、行政にとつて新成人との記念すべき出会い。ふるさと意識の醸成を図るべき機会と位置づけるべき。

**答** 教育長 今現在、式典後、公民館単位で交流会を開いている。ふるさとの原点は一番長く過ごした小学校時代、小学校区にある。20歳での機会に旧友との語り合いは、ふるさとの学校、地区をより実感させ、ふるさと意識の醸成に役立つ機会と考える。

**問** 青年層の組織化において、青年団の再興の考えがあるのか。

**答** 現在、市内6地区が鯖江市連合青年団に加入。主にユーカーさばえ隣接の青年会館を拠点に活動している。青年層の組織化は価値観の多様化、学歴の多様化で非常に厳しい現状。ただ、県の連合青年団の中で、市としての加入は福井市と鯖江市だけ。この芽を大事に支援していきたい。

**問** とにかく地元の若者にまちづくりのリーダーになつてもらいたい。まちなか再生への関わりをどう考える。

**答** まちなかのぎわい創出と活性化には、若者の関わりが不可欠。

様々な場面において参画する居場所を提供する土壌づくりが重要。今後とも、若者と地域が一体となって取り組めるような形で支援したい。

**問** 若者の生活上のオアシスはスポーツ・文化活動。スポーツ、文化活動施設での活動支援をどう考えるのか。

**答** 近年はスポーツ、文化の両分野とも、青年層を中心に新しいジャンルを含め活動が多岐にわたる。そこで、活動の受け皿の充実を図り、適切な利用調整と運営管理に努め、今後とも青年層の動きにアンテナを張り、柔軟で多面的な支援をもつて対応したい。